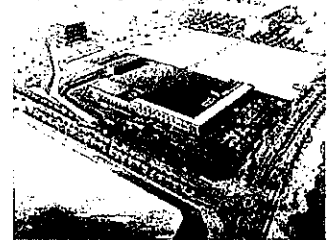


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	関西学研工場・研究開発センター増	階数	地上3階
建設地	京都府相楽郡精華町精華台8丁目1	構造	S造
用途地域	準工業地域、22条区域	平均居住人員	10人
地域区分	S地域	年間使用時間	4,160時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年12月 予定	評価の実施日	2018年6月7日
敷地面積	33,472 m ²	作成者	栗木義明
建築面積	16,301 m ²	確認日	2018年6月7日
延床面積	2,349 m ²	確認者	栗木義明



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	106%
③上記+②以外の	106%
④上記+	106%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 2.8**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.6

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 2.5**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 1.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		その他
総合 周囲に緑地を十分確保し、地域自生種の植栽に努めた。周囲の環境からも外観はできるだけ工場部分が隠れるような計画とした。		特に無し
Q1 室内環境 特に無し	Q2 サービス性能 階高にゆとりを持たせ、作業の快適性、更新性、メンテナンス性に配慮した。	Q3 室外環境 (敷地内) 周囲に十分な緑地を確保した。公共道路から建物までの距離を十分確保した。(40m以上)
LR1 エネルギー 特に無し	LR2 資源・マテリアル 特に無し(可燃物を使用できる範囲が少ない。上水の使用も少ない)	LR3 敷地外環境 緑地面積の確保。境界から建物までの距離確保。適切な量の駐車スペースを確保している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される